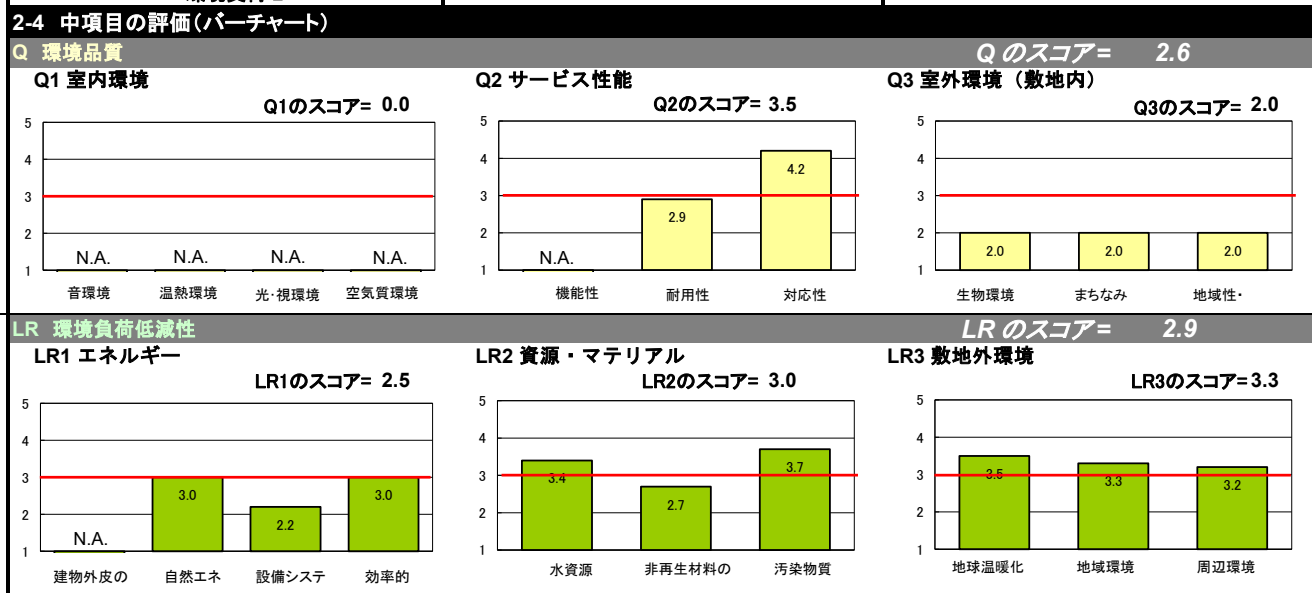
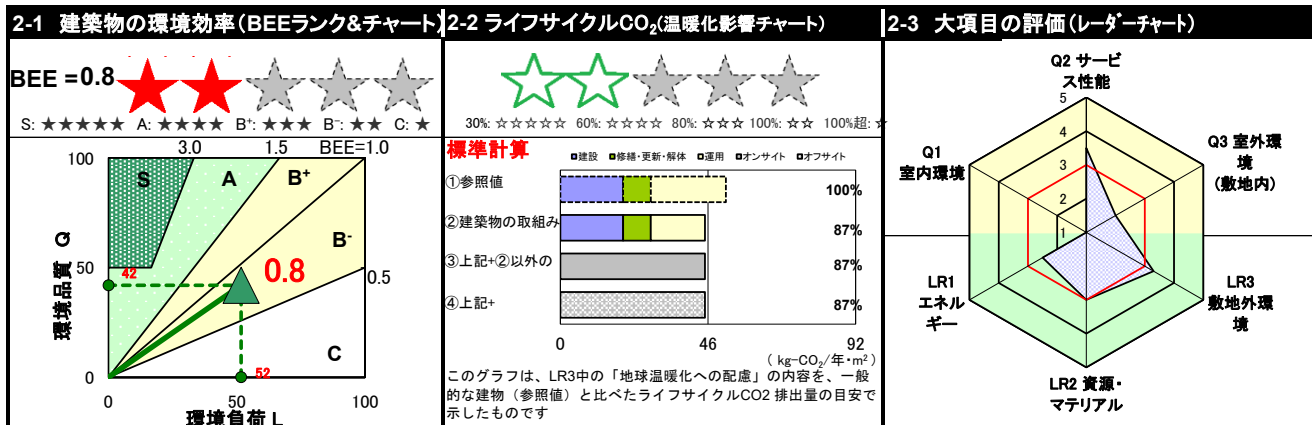




1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	日本製鋼所横浜製作所CR棟	階数	地上3F	外観パース等(任意)
建設地	横浜市金沢区福浦二丁目2-1	構造	S造	
用途地域	工業地域、防火地域	平均居住人員	15 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	3,285 時間/年(想定値)	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2027年5月 予定	評価の実施日	2026年3月6日	
敷地面積	4,780 m ²	作成者	日東工営株式会社一級建築士事務所	
建築面積	2,026 m ²	確認日		
延床面積	4,313 m ²	確認者		



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
横浜市金沢区に計画された地上3階建て、S造の工場。 設備システムの効率化のため、節水機器やLED照明を採用した。		特になし。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
評価対象外。	階高を4m以上、0.1≦[壁長さ比率]<0.3とすることで、ゆとりある空間とした。 仕上り材を痛めることなく電気及び通信配線の更新・修繕ができるように、EPS・ケーブルラックを計画した。	既存樹木を保存し、敷地内を積極的に緑化をすることで、良好な景観が得られるように配慮した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
BEI=0.75。	自動水栓に加えて、節水型便器を用いている。 LGSの地下により躯体と仕上げ材が容易に分解可能となっている。	燃焼機器を使用せず、外部空間に対して大気汚染物質を発生しないように配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

<非住宅>

受付日 2026年3月11日

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。

建物名称 日本製鋼所横浜製作所CR棟

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving

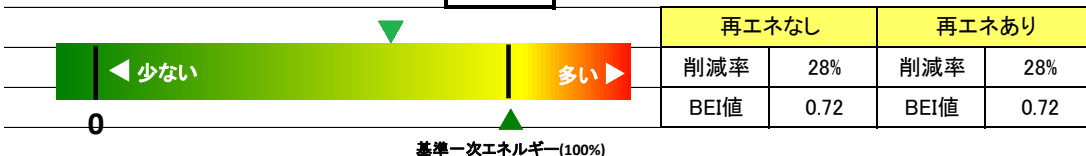
重点項目への取組(5点満点)

【省エネルギー性能】

2

■省エネルギー性能

この建物の設計一次エネルギー消費量 28 %削減



基準一次エネルギー(100%)

■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community

重点項目への取組(5点満点)

【快適・働きやすさ】

3

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience

重点項目への取組(5点満点)

【防 災】

3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape

重点項目への取組(5点満点)

【地域・まちづくり】

2

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2025年版v1.0

日本製鋼所横浜製作所CR棟

バージョン CASBEE横浜2025年版v1.0

スコアシート		重点項目				
配慮項目				建物全体・共用部		住居・宿泊部分
		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質				-	-	2.6
Q1 室内環境				-	-	-
1 音環境				-	-	-
1.1 室内騒音レベル				-	-	-
1.2 遮音				-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-
1.3 吸音				-	-	-
2 温熱環境				-	-	-
2.1 室温制御				-	-	-
1 室温	快適・働きやすさ	⑨温熱環境		-	-	-
2 外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能		-	-	-
3 ゾーン別制御性	快適・働きやすさ	⑨温熱環境		-	-	-
2.2 湿度制御	快適・働きやすさ	⑨温熱環境		-	-	-
2.3 空調方式	快適・働きやすさ	⑨温熱環境		-	-	-
3 光・視環境				-	-	-
3.1 昼光利用				-	-	-
1 昼光率	快適・働きやすさ	⑩光環境		-	-	-
2 方位別開口	快適・働きやすさ	⑩光環境		-	-	-
3 昼光利用設備	快適・働きやすさ	⑩光環境		-	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-
1 昼光制御	快適・働きやすさ	⑩光環境		-	-	-
3.3 照度	快適・働きやすさ	⑩光環境		-	-	-
3.4 照明制御	快適・働きやすさ	⑩光環境		-	-	-
4 空気質環境				-	-	-
4.1 発生源対策				-	-	-
1 化学汚染物質	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		-	-	-
4.2 換気				-	-	-
1 換気量	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		-	-	-
2 自然換気性能	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		-	-	-
3 取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		-	-	-
4.3 運用管理				-	-	-
1 CO ₂ の監視	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		-	-	-
2 喫煙の制御	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.43	3.5
1 機能性				-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-
1 広さ・収納性	快適・働きやすさ	⑫機能性		-	-	-
2 高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	⑫機能性		-	-	-
3 バリアフリー計画	快適・働きやすさ	⑫機能性		-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-
1 広さ感・景観	快適・働きやすさ	⑫機能性		-	-	-
2 リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	⑫機能性		-	-	-
3 内装計画	快適・働きやすさ	⑫機能性		-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-
1 維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	⑫機能性		-	-	-
2 維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	⑫機能性		-	-	-
2 耐用性・信頼性				2.9	0.50	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	防災	⑬耐震・免震		3.0	0.80	-
2 免震・制震・制振性能	防災	⑬耐震・免震		3.0	0.20	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30	-
1 躯体材料の耐用年数	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.20	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上		2.0	0.20	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上		5.0	0.10	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.10	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.20	-
6 主要設備機器の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.20	-
2.4 信頼性				2.6	0.20	-
1 空調・換気設備	防災	⑮信頼性		3.0	0.20	-
2 給排水・衛生設備	防災	⑮信頼性		2.0	0.20	-
3 電気設備	防災	⑮信頼性		3.0	0.20	-
4 機械・配管支持方法	防災	⑮信頼性		3.0	0.20	-
5 通信・情報設備	防災	⑮信頼性		2.0	0.20	-
3 対応性・更新性				4.2	0.50	4.2
3.1 空間のゆとり				4.6	0.30	-
1 階高のゆとり				5.0	0.60	-
2 空間の形状・自由さ				4.0	0.40	-

	3.2 荷重のゆとり		5.0	0.30	-	-	-
	3.3 設備の更新性		3.4	0.40	-	-	-
	1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	-
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	-
	3 電気配線の更新性		5.0	0.10	-	-	-
	4 通信配線の更新性		5.0	0.10	-	-	-
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	-
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	-
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.57	-	-	2.0
1	生物環境の保全と創出	地域・まちづくり	18生物環境の保全と創出	2.0	0.30	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	19まちなみ・景観への配慮	2.0	0.40	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	2.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	20地域性への配慮	1.0	0.50	-	-
	3.2 敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	14敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-
LR	建築物の環境負荷低減性			-	-	-	2.9
LR1	エネルギー			-	0.40	-	2.5
1	建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	-	-	-	-
2	自然エネルギー利用	省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	3.0	0.13	-	3.0
3	設備システムの高効率化			2.2	0.63	-	2.2
	集合住宅以外の評価	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	2.2	1.00	-	-
	集合住宅の評価	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	-	-	-	-
4	効率的運用			3.0	0.25	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-
	4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-
	4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-
	集合住宅の評価			-	-	-	-
	4.1 モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	-	-	-
	4.2 運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	-	-	-
LR2	資源・マテリアル			-	0.30	-	3.0
1	水資源保護			3.4	0.20	-	3.4
	1.1 節水			4.0	0.40	-	-
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-
	1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-
	2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-
2	非再生性資源の使用量削減			2.7	0.60	-	2.7
	2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.22	-	-
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			4.0	0.22	-	-
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	3.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-
	3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-
	1 消火剤			-	-	-	-
	2 発泡剤(断熱材等)			5.0	0.50	-	-
	3 冷媒			3.0	0.50	-	-
LR3	敷地外環境			-	0.30	-	3.3
1	地球温暖化への配慮			3.5	0.33	-	3.5
2	地域環境への配慮			3.3	0.33	-	3.3
	2.1 大気汚染防止			5.0	0.25	-	-
	2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.2	0.25	-	-
	1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-
	2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-
	3 交通負荷抑制			1.0	0.25	-	-
	4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-
3	周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-	-	-
	1 騒音			-	-	-	-
	2 振動			-	-	-	-
	3 悪臭			-	-	-	-
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.67	-	-
	1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-
	2 砂塵の抑制			1.0	-	-	-
	3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-
	3.3 光害の抑制			3.7	0.33	-	-
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			4.0	0.70	-	-
	2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-
上記以外の重点項目					-	-	-
<事務所用途>					-	-	-
知的生産性向上への取組				快適・働きやすさ	13知的生産性向上への取組	-	-
<住宅用途>					-	-	-
健康と安心					-	-	-
	1 化学汚染物質の対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-
	2 適切な換気計画	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-
	3 結露・カビ対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-
	4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心	⑦防犯対策	-	-	-	-